

【東日本大震災における被災地に関するニュースをピックアップしてお届けします】

News no.1

「南相馬の患者データ～裁判で証拠提出へ」

ニュースリソース：OurPlanet-TV <http://www.ourplanet-tv.org/?q=node%2F2315>

2018.10.12の記事より



OurPlanet-TV
www.ourplanet-tv.org

ABOUT JOIN SUPPORT CONTACT ENGLISH

Standing Together, Creating the Future

OurPlanet-TVは日本初の子どもから生まれる制作委員会。着目はすべて被災地での出来事となります。

Home STAFF LOGIN ContAct Documentary News 東京ラブレター ワークショップ作品 映画紹介 NPO・NGO ライブ配信 ContAct

Live

8日間集中コース
映画制作ワークショップ

ご支援のお願い
寄付・会費は寄付控除の対象となります

飯館村 わたしの記録

WORKSHOP
映像制作・広報を学ぶ

MEDIA SUPPORT
ビデオ作りのご案内

MAIL MAGAZINE
メールマガジンのご案内

SHOP
DVDを販売しています

ビデオをテーマで見る
東北・関東大地震関連情報

HOME

ホーム

南相馬の患者データ～裁判で証拠提出へ

投稿者：ourplanet 投稿日時： 金, 10/12/2018 - 18:00

新被ばく子ども裁判の原告の子どもたち (2017年撮影)

福島県在住の小・中学生らが、年間1ミリシーベルトを下回る地域での教育を求めて、福島県や福島市などの市町村を訴えている裁判（通称、子ども脱被曝裁判）で、原告側弁護士が被曝影響を示す証拠として、南相馬市立総合病院の患者数データを提出することがわかった。16日に開かれる第16回目の口頭弁論で福島地裁に提出する。

提出するのは、南相馬市立総合病院の事務課が作成し、同市議会議員の大山弘一議員に提供したがんや生活習慣病の患者数推移。被曝影響との関係が強いとされる甲状腺がんは、2010年には1人だったが2017年には29人に増加。また骨髄性白血病は、2010年の3人から、2017年には28人へと増加している。（図1）

NEWS

- 「辺野古の工事再開は許さない」防衛省に申し入れ
- 五輪中、都心は大渋滞の恐れ～交通影響地図公表
- 被曝量と甲状腺がんの関係を検討へ～福島県
- 東電元副社長の証言に「無責任」～被災者ら怒り立ち
- 津波対策先送り「心外」～東電・武蔵元副社長

TOPICS

- 【9日間コース】11月開講 映画制作ワークショップ
- 福島脱被曝2018 上映プログラム各イベント決定！
- 知事選前と国会議員選挙

提出するのは、南相馬市立総合病院の事務課が作成し、同市議会議員の大山弘一議員に提供したがんや生活習慣病の患者数推移。被曝影響との関係が強いとされる甲状腺がんは、2010年には1人だったが2017年には29人に増加。また骨髄性白血病は、2010年の3人から、2017年には28人へと増加している。（図1）

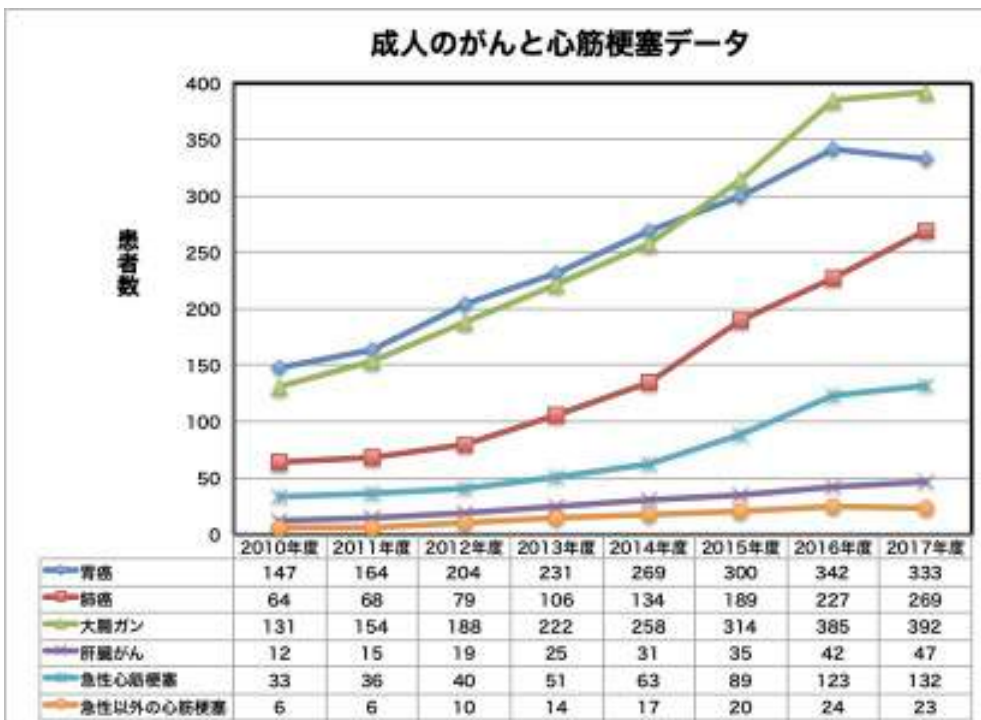


脱被ばく子ども裁判の原告の子どもたち
(2017年撮影)

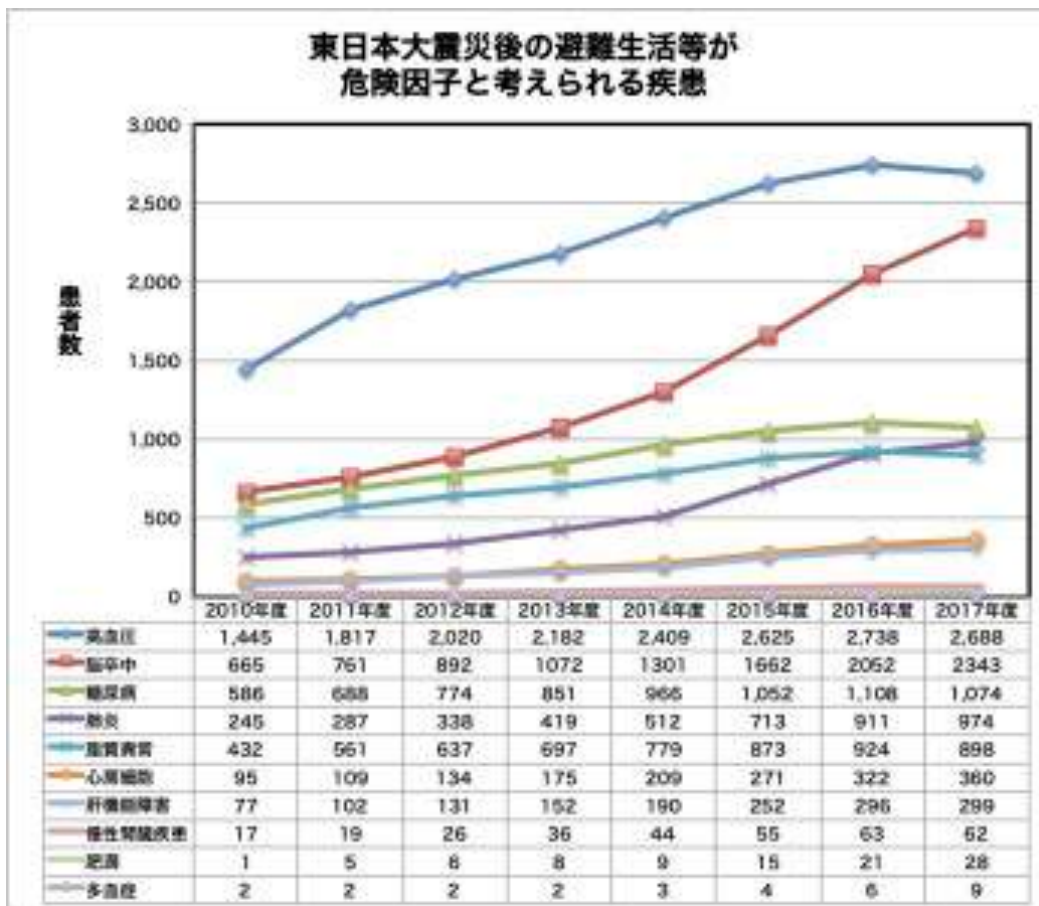


(図1：南相馬市立総合病院事務課作成の表をもとにOurPlanetTVがグラフを作成)

そのほかのがんや心筋梗塞の有病者数も増えており、大腸がんや心筋梗塞が約2～3倍程度増加。(図2) 脳卒中が3.5倍、肺炎は4倍弱の患者数となっている。原発事故後の避難などが原因で増加しているとして、すでに医学雑誌に論文が投稿されている高血圧や糖尿病は1.8倍だった。(図3) 南相馬市では原発事故後、人口も病床数とともに半減した。南相馬市立総合病院の入院及び外来患者数も、2010年度には約6万2000人にのぼったが、2015年には5万人以下に減っている。このため、市内の病院の減少が、市立病院の患者数増加に直結しているとは考えにくいと弁護団は指摘する。



(図2：南相馬市立総合病院事務課作成の表をもとにOurPlanetTVがグラフを作成。)



(図3：南相馬市立総合病院事務課作成の表をもとにOurPlanetTVがグラフを作成)

同データは、南相馬市議会議員の大山弘一議員の資料請求に基づき、南相馬市立総合病院事務課が、レセプトデータをもとにまとめたもの。大山議員は、同病院血液内科で週1回診察を行なっている福島医大の坪倉正治医師が、避難生活で糖尿病が増加しているとする論文を発表していることを受け、9月の市議会の一般質問で、市立病院の他の疾病動向について質問していた。

公害訴訟などで因果関係を立証する意見書を多数提出してきた環境疫学が専門の岡山大学の津田教授は、「有病数だとしても、大きな増加だと思う。疾患が増えなければ有病数は変化しない。従ってこのデータは、年々、新規の患者が増えていることを意味し、被曝による健康影響が否定できないことを示している。ただ病気によっては、死亡したり、設備の整った病院に転院することで、人数が変化するため、新規の発生数を詳細に把握することが望ましい。今後、さらなるデータが公開されることを期待したい」とする。

このデータをめぐっては、9月28日に開催された福島県議会の福祉公安委員会で、立憲民主党の古市三久も質問しており、福島県保健福祉部地域医療課の菅野俊彦課長は高齢化によるものと答弁した。子ども被ばく裁判の第16回口頭弁論は10月16日14時半から福島地裁で開かれる。

子ども被曝裁判

<http://datsuhibaku.blogspot.com/>

子ども被曝裁判弁護団

<http://fukushima-sokaisaiban.blogspot.com/>